学園だより

和歌山工業高等専門学校
第 112 号
令和 6 年 3 月

知能機械工学科　研修旅行（九州）

電気情報工学科　研修旅行（沖縄）

生物応用化学科　研修旅行（北海道）

環境都市工学科　研修旅行（北海道）

目　次

今後の本校の進むべき道　－創立 60 周年を迎えて－ …… 校　長　井　上　示　恩　3
自律型学習の力で未来の主役へ …… 副　校　長　謝　孟　春　4

定年退職にあたり

アレから 38 年 …… 教　授　辻　原　治　5
結局のところ、日々の暮らしも人生も思っているほどは悪くなさそう … 教　授　森　岡　隆　6

学生会長あいさつ

会長業務を終えて …… 知能機械工学科４年　加　納　天　汰　7

和高専の思い出

５年間の思い出 …… 知能機械工学科５年　津　村　百　香　8
最高にロックな学校 …… 電気情報工学科５年　佐　藤　颯　真　9
在校生へ …… 生物応用化学科５年　宮　本　祐　輔　10
５年の思い出 …… 環境都市工学科５年　石　田　力　也　11
高専生活で印象に残った出来事３選 …… メカトロニクス工学専攻２年　河　邉　渓　介　12
専攻科を振り返って …… エコシステム工学専攻２年　三　原　鈴　菜　13

全国高等専門学校ロボットコンテスト

徹底解剖！剛機果断 …… 知能機械工学科３年　髙　田　陸　生
知能機械工学科３年　下　津　大　地　14

柑紀寮より …… 15
令和５年度　進路状況 …… 17
令和６年度　行事計画 …… 18

今後の本校の進むべき道　－創立60周年を迎えて－

校　長
井上　示恩

本校は昭和39年に開校し、今年（令和6年）で創設60周年を迎えることとなります。設立以来、5年一貫の早期からの専門教育を行う大学等と同じ高等教育機関として、地域社会や全国、産業界をリードすることのできる技術者の育成に注力してきました。実に、約8千人に上る優れた卒業生を輩出し、ほぼすべての学生が、大学への進学や地元をはじめ全国に渡る有名企業、研究所、公官庁、大学等の教育機関などにおいて技術者、研究者等として活躍しています。進学先・就職先からは高い評価を得ています。少数ですが中学校や高等学校，高等専門学校，大学の教員となる方もおり、幅広い分野で存在感を発揮しています。

ここに創立60周年という記念すべき時を迎えることができるのは、ひとえに皆様方の永きにわたる御支援・御協力をはじめ歴代の校長・教職員の途切れることのない尽力の賜物であると感謝しています。本年秋頃に、総合体育館・学寮3号館完成に併せ記念講演会等を開催します。憩いの広場といった学生向け施設整備や学生支援事業・校内緑化事業なども実施する予定です。

さて、現下の日本を取り巻く状況は人口減少、社会経済や国際情勢の変化、国際化の進展、チャットGPT等の生成型AIの登場など科学技術の著しい進展などにより大きく変貌しています。企業においても社会のニーズの急速な変化により、経営の多角化、新規分野の開拓が必須とされ（モノからコトへの）変革を迫られています。つまり、良いモノを製作したり設計すれば売れる時代は終わり、周辺の技術を複合的に活用しながら真に求められるものを作らねば売れなくなりました。例えば、前述のチャットGPTのような革新的な技術が開発され、それらは誰もが自由に利用できる形態で、実際各業界で活用されています。このような激変期においては、今までと同じ発想・対応しかできないエンジニアは通用しなくなる恐れがあります。

本校としても今までは順調でしたが、これからどのような道を歩むのかということがさらなる発展を目指す上で重要です。学生の皆さんの発想の転換、マインドチェンジが必要となります。これからは、単なる「モノづくり」にプラスして社会のニーズを新たに発掘しイノベーションを起こしていく「コトづくり」へ進展していくことが時代の要請にかなうことになるでしょう。これから高専卒業生の技術者として必要な資質は、社会の変化に対応でき、顧客のみならずモノを取り巻くすべての関係者といった全体を考えることができる力、言うなれば「コトづくり力」を併せ持つことが必須です。

国も、今後、高専は新たな産業を牽引する人材育成の強化、国際化等が必要と考えています。

本校では、既にGEAR5.0、COMPASS5.0、STEAM教育等の最先端のプロジェクトを地元企業や他高専等と連携して推進し、「コトづくり力」を身につけるためのハードウェア（設備整備）を推進してきました。今後は、さらに、「コトづくり」の要素を付加した教育を展開したいと考えています。引き続き、高専卒業生や地域企業と協力して起業家マインド育成を目指すスタートアップ事業を学校全体で本格的に実施し、企業内で新たな産業分野の開拓・新規プロジェクトの発足などのアントレプレナーシップを有し、産業界を先導できる技術者の育成に注力していきます。これら既存のプロジェクトをお互いにリンクさせて実施することも有効だと思います。

また、上記に加え国内・地域企業のニーズも踏まえ、世界に通用するグローバルエンジニアを目指す学生も育てていきます。

学生の皆さんには、是非学内の設備の活用と教職員の支援を受けて、これらの取組に積極的に参画し、起業家精神・グローバルマインドを身につけ、希望と意欲を持ち続けて、日々、勉学に研究に勤しんでもらいたいと思います。日本の社会をリードしてくれることを期待します。

自律型学習の力で未来の主役へ

副校長
謝　　孟春

生成AIや量子コンピュータなどの社会変革を加速するような新技術が急速に発展しています。生成AIを用いて作成した文章やコンピュータのプログラムなどは正しいか、適切かを判断するのは使用者に委ねられます。今年度では一部の学生が生成AIを使って実験レポートの考察や卒業論文の文章生成の参考にしているようです。そのため、卒業論文を添削した際には、文章は以前の卒論よりも流暢になっている一方で、自分の内容に合っていない表現や難しい漢字などが目立つようになりました。

現在注目されている人工知能（AI）の中で最も重要視されている側面の一つは学習能力です。AIの深層学習は大量のデータを駆使して新しい情報やパターンを把握し、その経験を基に問題解決や意思決定を行います。この学習によって、AIは状況に適応し、より高度なタスクに対応する能力を向上させることが可能です。

一方で、AIの領域において深層学習とは異なり、教師データを使用せずに、主体がタスクを達成するために自ら試行錯誤しながら学習する強化学習の手法も存在します。この学びの過程で得た成功や失敗に基づき、自らの行動方針を修正することで将来の最大の報酬を追求します。強化学習で獲得した行動方針は未知の環境でも適用できます。これがまさに自律型学習と呼ばれ、未来を切り開くための力強いツールとなります。

本校は誇るべき60年の歴史を有し、多くの卒業生が日本及び世界の産業界で活躍しています。しかし、これからは誰かの指示に受け身で答える人材が重宝される時代が終わり、誰もが、より主体的に、自らの意思を持ち、考え行動することが期待される時代になっていると思います。自律型学習者として、自ら設定した目標を達成することができる自律型人材になることは重要です。

自己管理能力を高め、自律型人材になるためには、やはり高専での学生生活中に様々な準備を進めていくことが不可欠です。毎日の授業への出席や宿題の期限内での提出、そしてテストの勉強を一夜漬けで行うことで、一定の学業成績を維持することは可能です。しかしながら、これらの活動のほとんどは外部からの強制によるものであり、自己の意志や目標に直結しにくいと言えます。

自律型学習者としての第一歩は、まず、これまで経験したことのない領域にチャレンジすることです。はっきりした答えがないプロジェクトに積極的に取り組み、自ら設定した目標を達成するために試行錯誤を繰り返し、周囲の評価を受けながら自分の進むべき方向を修正し、未知の環境でも適応できるように学習した行動方針を築いていきます。

さらに、急速に変化している社会に適応し、未来を切り拓くためには、自己成長を積極的に追求します。自律型学習者としては、将来に向けて以下の取り組みが重要です。

どの分野で成長したいのか、どのスキルを磨きたいのかを明確にすることです。自分が「オールマイティーでなくてもよい」と認識し、自らの良いところや強みを見つけ、それを伸ばすために時間をかけます。理論だけでなく、実践的な経験も重要です。プロジェクトへの積極的な参加や、実際の課題に取り組みながら学ぶことでスキルが向上します。学習は継続的なプロセスです。新しい課題や高い難易度のプロジェクトに挑戦し、失敗や成功から学び成長します。得た知識や経験を他者と共有し、コミュニケーションを図ることで新たなアイデアや視点を得ることができます。自律的な学習を大切にし、柔軟で適応力のあるスキルを身につけ、変化に対応できる力を育てましょう。

どの時代にも適応できる自律型学習の力を身につけ、獲得したスキルを社会に貢献し、幸せな人生を送ることができる未来の主役になることを期待しています。

アレから38年

教　授
辻原　　治

タイトルの「アレ」は和歌山高専への就職です。面接のため、御坊駅に降り立って、タクシーで高専に着いたとき、当時の学科主任の先生がひどく慌てた様子で、私を手招きするので、何かあったのかと焦りました。校長との面接の時間を過ぎていたようで遅刻です。どこで行き違いがあったのか、今となってはわかりません。それでも、無事面接に合格し、昭和61年4月に赴任しました。

学生時代から「地震」の研究をしていました。地震の現象の研究ではなく、耐震設計にかかわる工学的な内容になります。在任中は、大きな地震が数度あり、そのたびに調査に赴きました。それらを契機に、世の中も大きく変わったような気がします。

まず、1995年の阪神淡路大震災です。1月17日の早朝、神戸の中心部を襲う直下型の地震があり、6,000人以上が犠牲になりました。神戸では、阪神高速道路の高架橋が横倒しになったり、ポートアイランドが液状化したり、同時多発火災が発生したりと、日本の現代都市を襲った初めての地震でした。御坊でも市役所の窓ガラスが割れる程の揺れがありました。この地震を契機に全国に地震計がたくさん設置されるようになり、また、耐震設計の考え方が大きく変わりました。皆さん、緊急地震速報のことは知っていると思いますが、これは、地震計がたくさん設置されたおかげです。

つぎに、2011年の東日本大震災です。いわゆる3.11、3月11日に東北地方太平洋沖を震源とするプレート境界型の地震で、死者・不明者が2万人近くと未曽有の災害です。ちなみに、関東大震災から昨年で100年ですが、その時の死者・不明者は10万人を超えると報告されています。東日本大震災を契機に、南海トラフ地震の被害想定も見直され、全国で最大32万人の死者・不明者がでると推定されました。また、地震が起こってからでは遅い、ということで、事前復興や国土強靭化の名のもとに、現在ハード対策が進んでいます。田辺インター以南の自動車道もその一環です。

さらに、2016年の熊本地震がありました。震度7の地震が立て続けに発生しました。これまで経験したことがない現象です。大きな地震が発生すると余震が続きますが、これとは異なる本震が少し離れたところで起こり得ることが広く認識され、報道の仕方にも変化がありました。

直近では、今年の元旦に発生した能登半島の地震です。能登半島の北側に沿った海の中にある活断層が滑って、地震と津波を引き起こしたとされています。寺田寅彦が残した「天災は忘れた頃にやってくる」という言葉は有名です。正月の夕方、帰省者も多くいる中、突然地震が襲ってくると誰が想像したでしょう。

私にとって、教育･研究面での「アレから･･･」のアレは、阪神淡路大震災だったり、東日本大震災だったり、熊本地震だったりです。それぞれが節目だったような気がします。

もう一つ、私にとってのアレは、2011年の紀伊半島大水害です。同じ年に東日本大震災があったので、それほど目立ちませんでしたが、和歌山県とくに紀南地方で大規模な被害がありました。県内で最も被害が大きかった那智勝浦町に、和歌山県が土砂災害啓発センターを設置し、啓発教育や研究などを行うようになりました。和歌山県は、地震・津波以外に、山間部が多い地形から土砂災害への警戒が必要です。

同センターと縁があって、防災教育の活動を共にするようになりました。卒研生も巻き込んで、「防災RPG」、「プロジェクションマッピングによる防災学習砂場」の制作と効果の検証などに取り組み、運よく、高専防災減災コンテストで、文部科学大臣賞などの最高賞を頂くことができました。私は専ら調整役でしたが、繋ぐことの大切さを、遅ればせながら実感しました。今年も、「プログラミング＋防災」で取り組んでいます。また、由良町某地区との「祭り＋防災」コラボで活動し、第2回高専防災減災コンテストの最終審査会に出場します。学園だよりが発刊される頃には、結果が出ていると思います。楽しみです。

アレから38年、専門の地震を軸に振り返って、つらつらと書きました。大変な時期もありましたが、自分のやりたいことをやらせていただき、楽しく充実した教員生活でした。この間、関わって頂いた教職員と学生の皆様に感謝して、結びとします。

結局のところ、日々の暮らしも人生も思っているほどは悪くなさそう

教　授
森岡　　隆

思い起こせば昭和63年、日本にバブルの波が押し寄せ始めた頃に、和歌山高専に英語教員として赴任しました。在職中の36年間に知り合うことができました学生、保護者の皆様には心から感謝申しあげます。赴任当初、私の英語の授業は明治時代から続く訳読中心でした。音声も、最初の数年間はオーディオ機器を使わず、教科書を自分で読み上げていました。小テストもなく、授業中に答えられなくても学生の点数がどうなることもなく、のんびりした時代でした。

英語を教えつつ中出先生と30年近く、ラグビー部の顧問を務めました。もうクラブ自体はなくなってしまいましたが、かつてのラグビー部員たちも立派な社会人に育っていると、時折耳にします。彼らにもとても感謝しています。私はといえば、赴任1年目の高専祭のOB戦で、逆ヘッドでタックルに入って頚椎を痛め、病院で即入院を命じられました。結局数ヶ月入院しましたが、あの時は多方面にご心配とご迷惑をおかけしました。

また、英語のプレゼンテーションコンテストの指導では、継続する難しさを痛感しました。それでも15年間以上毎年地道に指導し続けた結果、学生たちの頑張りと、マーシュ先生をはじめとする英語科教員の努力で、和歌山高専チームは9年連続で全国大会に出場できました。正直なところ、私の指導の至らなさから信頼関係をうまく築けなかった学生も何人かいます。それでも少なからずの学生とは今でも連絡を取り合っており、彼らの頑張りにはいつも刺激を受けています。

さて、じつは本校では25年ほど前に、教員が二分され対立した不幸な時期がありました。当時の超ワンマン校長もすでに鬼籍に入りましたが、反校長の態度を隠さなかった私は、要らぬトラブルを避けるため、彼の退任後は学内では目立たぬようにしていました。例えば私が学会の理事をし、毎年ひっそりと高専フォーラムで発表していたことは、本校の事務の方々と一部の教員以外は、ほとんど誰もご存知なかったと思います。

興味深いことに、学外の人たちはそんな私を面白がって、いつも応援してくださっていました。やがて私は、高専の英語教員のほとんどが加入する学会で、学会長に選ばれることになります。会長を務め上げた後は、高専の校長連合会と意見交換をする立場になり、その頃には高専機構の仕事を断続的に任されるようになっていました。学会の理事、様々な高専の校長先生、高専機構の関係者からの応援は私には身に余るもので、今も大変光栄に感じております。

実のところ、私が安定して学外でこのような立場におれたのは、歴代の校長先生と事務の方々が、学内では長年黒子に徹していた私を陰でサポートしてくださっていたおかげです。皆様には、とりわけ感謝しております。ありがたいことに、かつて年長者から聞かされていた「地道にコツコツ仕事をしておれば、見る人は見てくれている」ことを、定年までの数年間で身をもって学ぶことができました。

週に1度、私が放課後に行っていた補習は23年間続きました。とはいえ、もちろん最初は「1年目」からのスタートでした。今回お話しした、老教授のこのような人生が、学生の皆さんや保護者の方々の心の琴線にほんの少しでも触れるようでしたら、これほど教師冥利に尽きることはありません。36年間、楽しかったです。皆様、ありがとうございました。

（マーシュ先生、2017プレコンチームメンバー、私。彼女らは特別賞を受賞した。2018.1.28. 第11回全国プレコンにて）

学生会長あいさつ

会長業務を終えて

知能機械工学科４年
加納　天汰

2020年当初に始まった新型コロナウイルス感染症が社会問題となってから既に４年が経ち、月日の経過とともに世間のコロナに対する考え方も次第に変わってきました。

そんな中、ウィズコロナからアフターコロナへと移りゆく時期に、学生会長という大役を任され、この１年間、学生会の負担を軽減させることを主軸に運営を行ってきました。

コロナの影響で伝統が途絶えたこのタイミングを学生会の制度を一新するチャンスと考え、アナログ故に効率の悪かった業務を取り払い、teamsを積極的に活用したり、根本の運営方法を見直したりし、少人数でも運営が行えるよう努めました。

さらに、学生会員が少しでも楽しく学生会活動を行えるように気さくでユーモアのある人物でいることを心がけてきました。

その過程で、コミュニケーションをとることの大切さや、周囲に目を配ることの難しさを実感し、自分自身の成長にも繋がりました。

この１年を振り返って最も印象に残っている行事は、やはり高専祭です。今年度の高専祭は４年ぶりとなる無制限開催ということもあり、開催までの過程で沢山の会議や調整が行われました。会長ってこんなに大変なのか。と心が折れそうになりながらも準備し、頼むから大きな問題だけは起こらないでくれ！と落ち着けない高専祭を過ごしました。そんな中、学生会員の皆が各自の業務に責任を持って取り掛かってくれたことで、無事高専祭を完遂出来ました。学生や先生方から、お疲れ様。と労いの声を頂いたとき、達成感を感じると共に、私についてきてくれた学生会員の皆に感謝の気持ちでいっぱいでした。

新学生会長の西川君は堅実で頼れる男です。今後の学校体制をきっと良いものにしてくれるでしょう。先代が引いてきたレールの上をただ進むのではなく、彼自身の考えを学生会活動に積極的に反映し、新しい事にどんどん挑戦してほしいです。

学生の皆さんも、これまで以上に学生会への協力を宜しくお願いします。

最後になりましたが、厚生補導の先生方を初め多くの方々にも支援していただいたこと感謝申し上げます。１年間ありがとうございました。

和高専の思い出

５年間の思い出

知能機械工学科５年
津村　百香

私が和歌山高専に入学してから、もうすぐ５年が経とうとしています。ついこの間まで１年生だった気がして、月日の早さに驚きを隠せません。

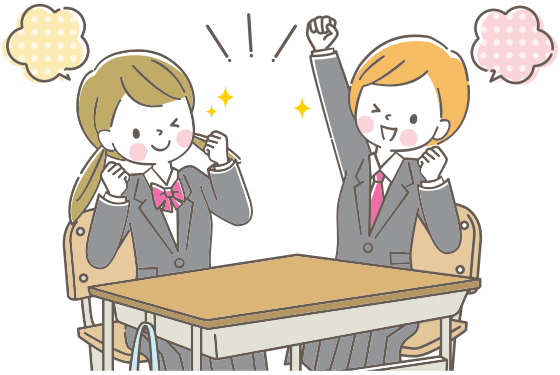
５年生になった私は、友人たちと忙しいながらも楽しい毎日を送っています。そんな中、卒業を迎えられることに、嬉しい反面、少し寂しいなとも思ってしまいます。

和歌山高専に入学した頃は、心の中は緊張と不安でいっぱいでした。最初は、初めて会う同級生たちとの距離感を掴めず、つい見えない壁を作ってしまったと思います。ですが、周囲はこんな私にも気さくに接してくれて、かけがえのない友人たちにも出会えました。それ以来、学校生活にも慣れ始め、学年を追うごとに次々と思い出が増えていきました。友人とお揃いの衣装を身にまとった高専祭。山梨県に行った研修旅行では、近くで見る大迫力の富士山に、思わず圧倒されました。他にも、寮生活で知ることができた家族の温かさやありがたみ。同時に、友人たちと過ごす時間は毎日が修学旅行の様な、楽しくて忘れられない宝物になりました。

こうして思い返すと、この紙に収まらない程、充実した５年間でした。全ては、共に学び、励まし合ってきた友人たちと、先生方、先輩と後輩、そして、どんな時も傍で支えてくれた家族のおかげです。本当にありがとうございます。卒業してからも、変わらず沢山の思い出を皆と築いていけたらなと思います。

５年間お世話になった校舎を旅立ち、春からは新生活が始まります。皆が其々の道を歩み始める中、私は今でも、将来への大きな不安に心が押し潰されそうになる時があります。ですが、入学した頃の自分も似た心情だったのを思い返すと、そんな心も軽くなるように思えます。きっと成るように成る。ただ、勇気を持って一歩踏み出すことが大切です。私も、この先の新しい出会いが今の自身をより成長させてくれると信じて、恐れずしっかりと、前を向いて歩んで行きたいと思います。

改めて、お世話になった全ての方々に、実りある高専生活を送らせていただいたことを心より感謝申し上げます。また、一緒に和歌山高専を卒業する皆さん、ご卒業おめでとうございます！



最高にロックな学校

電気情報工学科５年
佐　藤　　颯　真

私は三重県の工業高校を卒業後、和歌山高専に4年次編入学をしました。4年次編入学とは、高校3年間の課程を修了した後、高専の4年次に編入学する制度のことです。

父が高専を卒業していたこともあり、「どんな学校でどのようなことを学ぶのか」ということはある程度知っていました。そのため、私は中学生時代から高専への進学を目指していました。しかし、私自身の勉強不足等もあり、地元の鈴鹿高専へ合格することはできませんでした。合格したら高専に行こうと決めていましたが、落ちてしまったため高校を選ばなければなりません。普通科の高校へ進学して共通テストを受験し大学へ進学するのは自分には到底できないことだと感じたため、工業高校への進学を決意しました。

工業高校への入学後は定期テストとレポートだけをしっかりこなし、あとは怠惰な高校生活を送っていました。高校卒業後は企業へ就職するだろうと思いながらも、決めきれずインターネット等で進学先を探していました。すると、高専への4年次編入学制度が存在することを知り、このとき絶対高専に編入学しようと心の中で誓いました。全国の高専の入試方法や研究内容、学習分野等を閲覧しました。その中でも、特に和歌山高専に魅力を感じたため、志望校に決定しました。

高校3年次の初夏に和歌山高専の編入学試験に合格することができ進路が決定しました。しかし、工業高校の3年間と高専の3年間では学ぶ内容、量、質のどれをとっても天と地の差があることを知っていました。特に数学や各分野の専門科目は高専入学までに3年間のギャップを埋めておかなければ確実に留年すると、このときからおびえていました。ここから、数学と専門科目の勉強がスタートし、数学は高校で進学者向けの補講があったため、夏休みを返上して高校に通いました。専門科目は学科の先生にわからないところを質問しながら独学で勉強していました。

月日は経ち、高専入学の日がやってきました。入学したその日から高専での寮生活が始まり、友達はできるのだろうか、授業についていけるのだろうか、という不安を感じていました。翌日、初めてクラスメイトと顔を合わせました。自己紹介で黒板の前に立ったときの緊張は今でも鮮明に覚えています。そのまま、午前の授業を受け、終わると昼食の時間がやってきました。このとき寮生のみんなが「ご飯行こう～！」と誘ってくれて、みんなで食堂へ向かいました。並んでいる間、自己紹介や高専のことを教えてもらい、一気にみんなと打ち解けることができたような気がします。このときのメンバーは今でもカラオケに行ったりBBQをしたりとプライベートでも遊ぶ親友です。

しかし、楽しいことばかりは続かず初めてのテスト期間がやってきました。テスト期間は各々自分の部屋で勉強するのかと思っていましたが、共有スペースで一斉にみんなが勉強を開始するのには驚きました。寮生ならではの勉強方法だと感じました。でも分からないところがあればすぐに聞くことができ、非常に効率のよい方法だと思いました。高専に入学して最初のテスト期間は私が人生で1番勉強した期間だと思います。1日10時間以上を3週間続けました。そのかいあってかテストでは高得点を取ることができました（みんな教えてくれてありがとう）。

そして、私が高専に入学してからあっという間に時は経ち、もう卒業を迎えます。この2年間はこの文章だけでは表せないほど濃くて充実した時間でした。時にはレポートに追われ、課題に追われ大変な時もありましたが、共に乗り越え楽しい思い出ばかりです。和歌山高専に来ていなければ今の自分はいなかったと言えるほど大きく成長させてもらいました。

高専卒業後は大学へ3年次編入学しますが和歌山高専で過ごした2年間は新しい場所へ行っても必ず役に立つと感じています。たったの2年間だけでしたが私の高専生活に関わってくれたすべての人に感謝します。ありがとうございました！！

在校生へ

生物応用化学科５年
宮　本　　祐　輔

こんにちは。ゆうすけです。和歌山高専に入ってめっちゃ変な思い出しかないけど､友達や先輩･後輩、先生とか就職先にも恵まれてここに来て良かったなと思ってます｡ありがとうございました。書いてる今は１月なので卒業に向けて必死ですけど、これを見れてるなら卒業できたんやと思います。幼少の頃から憧れてた強くて優しい超かっこいい柔道の先輩が和高専行ったって親伝いに聞いて、「受けてみるかぁ～」のノリで受験を決めたのを覚えてます。公文辞めれて清々してたところやったのに、受験対策にビンタ系の物理的な指導結構キツめの塾に入れられました。柔道のおかげでビンタは慣れててもプライベートに干渉してくる宿題って奴がどうしても解せんくて、一番家から近くて行きたかった那賀高校よりも合格時期が早かったから入学して塾を辞めれました。おかげで５年間の課題地獄を味わったんですけど、まあ結果オーライです。男子寮で過ごした楽しい青春も４年生でプリズンブレイクして、自由で楽しい下宿生活では余らせてた勢いを全部出し切るまで遊びました。一人暮らしをして至った結論は、部屋を気持ち７割ぐらい綺麗にしてたら怠惰になることはないってことです。理由はわからんけど限界感じてる時に限って部屋が空き巣入った後みたいになります。もともと汚いけど。御坊で始めたバイトや友達の輪の拡大に人脈が広がり、自分の中の世界観が一気に広がりました。そんな人脈いらんやろって言うてる人も、絶対に広がる人との縁からの気づきが人生を彩ってくれるもんやと思うんで、騙されたと思って何か一つだけでも行動してみてください。ただやらなあかんことに怠惰になって遊びすぎて後々苦しんでるのも自分やし、恩人達に迷惑かけてるのも自分です。先考えて動ける賢い人は多いんで大丈夫やと思います。先輩方にはかわいがってもらえて感謝止まらんし、後輩達にとってはかっこいい先輩でおれたかわかりません。多分変なやつポジやな。なんやかんやで卒業できてたら関東でめちゃめちゃ楽しくやってると思いますんで、その辺で困ったら連絡ください。お世話になりました。

５年の思い出

環境都市工学科５年
石田　力也

入学前は長いだろうと思っていた５年間の高専生活が、もうすぐ終わりを迎えようとしています。振り返ると沢山の思い出や経験の詰まった充実した５年間でした。

一番に思い浮かぶのは、部活動での思い出です。「高専の部活動はゆるめ」という話を知人から聞いていたので、正直あまり期待していませんでしたが、小学生から続けてきたバスケットボール部入部しました。いざ体育館に行ってみると真剣な眼差しでプレーする先輩方の姿があり、部活動も頑張ろうと思ったことをよく覚えています。先輩方が引退してからは、主将を務めさせてもらいました。コロナ禍で満足のいく活動ができず、辛いことや悔しいこともありましたが、最後まで主将としてやり遂げられたのは、ぶつかりながらも支えてくれたチームメイトのおかげだと思います。

５年間の寮生活も忘れられない思い出です。入寮前は友達ができるか、うまくやっていけるかなど不安を抱いていましたが、すぐにみんなと打ち解け、楽しい寮生活が始まりました。テスト期間にみんなで夜遅くまで勉強したり、盛り上がりすぎて寝不足でテストを受けたりしたのは寮生活ならではの思い出です。学年が上がり同級生が退寮していく中、僕は指導寮生になりました。低学年のフロアを担当したので、同じフロアに同級生の友達がおらず、寂しく思うこともありました。しかし、これまでは関わることがなかった他学年の先輩、後輩と交流が生まれ沢山の人と関われたので、指導寮生になって良かったなと思います。また、５年生で指導寮生委員長を務められたのは、これまでの寮生活、指導寮生活動が僕を成長させてくれたからだと思います。

最後になりますが、僕が部活動、指導寮生活動、他にも様々なことに挑戦し、成長でき、充実した５年間を過ごせたのは友達、先輩、後輩、先生方がいてくれたからだと思います。心から感謝しています。本当にありがとうございました。僕は専攻科に進学するので、あと２年間和歌山高専で過ごすことになりますが、本科５年間での経験を活かしながら頑張りたいと思います。

高専生活で印象に残った出来事３選

専攻科
メカトロニクス工学専攻２年
河　邉　　渓　介

私は和歌山高専に７年間在籍したことになりますが、高専生活をじっくりと振り返った事は今までありませんでした。この機会に自身の高専生活で印象に残った出来事を思い出し、よかった点や反省点をまとめました。特に印象に残ったことは、３つ挙げられます。まずは友人に恵まれたこと、次にゲーム制作に出会ったこと、最後に豊橋技術科学大学大学院に合格できたことです。

私が電気情報工学科に入学した当初から、専門知識や技術を持ったクラスメイトがいました。１～２年生での寮生活で、彼らには主にプログラミングやコンピュータについて紹介してもらいました。それらの知識は、中学校を卒業したばかりの私にとって新鮮で興味深く、電気情報工学について親しみを持つ助けになりました。

プログラミングに関連して、自身の趣味であるコンピュータゲームを一歩進め、ゲーム制作に挑戦し、完成品を高専祭で発表しました。制作を始めるにあたって、まずは初心者向けの本を読み、必要な知識や技術を知りました。特に重要なプログラミングについて、授業で扱った知識が存分に発揮できたことが、高専に入学してよかったと思えた瞬間でした。クラスメイトと協力しながらゲームを完成させた経験は、今でも自分に自信を与えています。

最後に、豊橋技術科学大学大学院に合格したことが、私の将来にとって最も重要な事だと思います。しかし、試験日が８月後半であるにも関わらず、勉強を本格的に始めたのは４月頃とかなり遅れてしまいました。人間は、自身の将来を思い描くとき、その将来の自分を他人事と同じように処理すると聞いたことがあります。私も自分の受験について他人事のように思ったのかもしれません。しかし、明日の自分は他人事と考える人は少ないと思います。これからは、長期的な目標に対して逆算し、今日、明日できることを積み重ねていこうと思います。

専攻科を振り返って

専攻科
エコシステム工学専攻２年
三　原　　鈴　菜

多くの学生は５年間この学校で学んだ後、就職か大学編入をする。私はそのどちらでもない専攻科進学を選んだ。本科では友人たちと話し、笑い合い、時に一緒に落ち込み、語り合う。そんな平和な日々を送った。しかし、仲のいい友人たちは就職か大学編入で、専攻科に残ったのは私だけ。本科と同じような日々を過ごせるのか不安だった。

専攻科入学後、授業数は多いし、他学科の講義は難しいし、課題は多いし、研究もしないといけない。ほとんどが「楽しい」で満たされていた本科とのギャップについていけず、なによりそれを相談できる友人がいなかったことが辛かった。そんなときに、

「今度一緒にランチ行こ！」

と声をかけてくれたクラスメイトのＡちゃん。友人がいない私にとってこの言葉がどれだけ嬉しかったことか。このことをきっかけにＡちゃんとはよく遊ぶようになった。定期的にランチやカフェに行ったり、推しの話で盛り上がったり。今ではお泊りできるほどの仲になれた。Ａちゃんのおかげで私はこの２年間、専攻科を楽しく過ごすことができた。Ａちゃんには感謝しかない。

専攻科進学という選択をしたことで、一度は心が折れかけたけど、だからこそ、楽しさや苦しさなど、いろんなことを「共有できる人」を見つけることができた。信頼関係を築くのに時間がかかる私にとって、たった２年で信頼関係を築けたことは大きな成長につながった。また、本科で仲の良かった友人たちの存在がどれだけ大切なのかを改めて感じた。高専で築いたたくさんの縁に感謝して大切にしていきたい。

４月からは社会人。７年間いた場所からは遠く離れ、環境もガラリと変わる。今までと同じような信頼関係を築くことは難しいだろう。それでも仕事の楽しさや苦しさ、夢などを共有できる同僚や先輩たちとの出会いに期待して頑張りたい。

全国高等専門学校ロボットコンテスト

徹底解剖!剛機果断

知能機械工学科３年
髙田　陸生
下津　大地

自分たちロボコン部は昨年の高専ロボコン2023において近畿地区大会で優勝し、11月26日に行われた全国大会に出場しました。結果は予選敗退に終わってしまいましたが、この場を借りて自分たちのロボットを解説させていただきます。

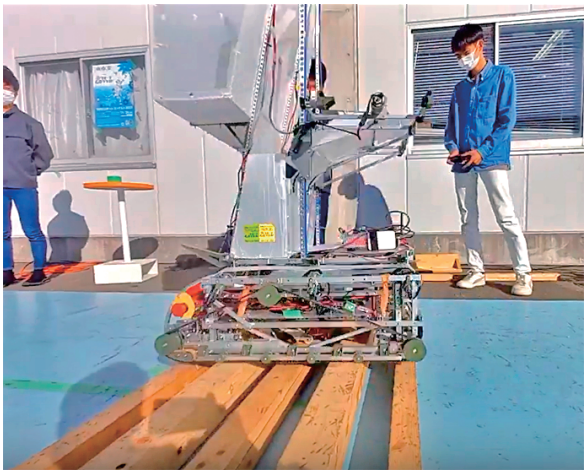
自分たちのロボットは「速さ」を重要視しました。真ん中にあるセンターゾーンのフルーツを全て取ると合計点数の半分を得ることができるので、センターゾーンのフルーツを取ることで実質的に勝利が確定します。そのことに気づいた自分たちは、センターゾーンに少しでも早く入り確実にフルーツが取れるロボットを開発することにしました。

フィールド内にあるサイズの違う角材をスムーズに乗り越えるために駆動輪とは別の戦車のようなキャタピラクローラーを取り付けて、駆動輪をカム機構で昇降させロボットの内部に収納させました。そうすることでロボットが地面と水平を保ったまま減速せずに乗り越える事ができます。

すり抜け機構は二種類のロープを超えるための機構で、ロボット全体が上下に切り離せるようになっていて、エアシリンダーを使った６本のジョイントで固定されています。その上下に分かれてできた空間の中にロープを通すことですり抜ける事ができます。ロープがジョイントを通過する部分にスイッチがついていて、ロープとそれが反応することで前側が閉じ、その後ろ側が開きます。それらを連続的にすることですり抜ける仕組みとなっています。

センターゾーンのフルーツも素早く収穫する必要があります。カーボンパイプを使用し箱型のお助けアイテムを２つ付けることでフルーツを２つ同時に収穫できるようにしました。さらに卵型のカムを使って外部からお助けアイテム自体を振動させ、箱の底の部分が当たることで簡単に収穫できるようにしました。

こうした工夫を凝らし、全国優勝を目指して練習を重ねました。自分たちの中では得点力が全国１位で、トラブルがなければ優勝できたロボットだと思っています。今回の反省を生かし、来年こそ全国優勝ができるよう頑張っていきますので、来年も応援よろしくお願いします！



柑紀寮より

寮務主事補

石 橋　春 香

今年度も柑紀寮の運営にご協力いただき、ありがとうございました。9月以降に行われました主な行事についてご紹介いたします。

4号館運用開始

学生寮4号館の改修工事が終わり、後期より運用開始となりました。昨年度改修工事が完了した5号館と同様に寮生同士が顔を合わせやすいよう中心に交流スペースをもつ部屋の作りとなっています。まずは本校2年生に割り当てられました。また、現在は3号館の改修工事が行われており、今後ますます寮生にとって居心地の良い生活環境が整備されていく予定です。

後期指導寮生任命式

10月6日（金）に2023年度後期指導寮生任命式を実施しました。

任命式では三岩寮務主事の挨拶ののち、高学年寮生から選ばれた指導寮生・副指導寮生へ任命書が手渡されました。その後、任命を受けた指導寮生委員長の環境都市工学科5年生の石田力也 君から、「(4号館の運用開始に伴って任命された)新しいメンバーとともに最後に良かったと思えるよう、頑張っていきましょう」との挨拶がありました。

また任命式の後に行われている研修会の代わりとして、芥河晋 寮務主事補から講話がありました。講話では「来年度に向けて潤滑な運営が行える体制を作る機会として後期を過ごして欲しい」との激励がありました。

第2回避難訓練

今年度2回目の避難訓練を10月12日（木）に実施しました。

今回は日が落ちた夜間での避難訓練として、午後7時に寮の補食室で火災が発生したという想定で実施されました。寮内放送による避難命令後、全寮生は指導寮生・副指導寮生に誘導されながら避難場所に指定された本校メディアセンター棟前に非常用持出袋を持って避難しました。その後、指導寮生・副指導寮生による点呼が行われ、全寮生の安否が確認されました。

本避難訓練の最後には、三岩寮務主事より「寮で火災を発見した場合にはまず自分の身の安全を優先し、また大きな声で他の寮生に知らせるよう動いて欲しい。もし小さな火災であれば初期消火に務めてほしい。」といった指導がありました。

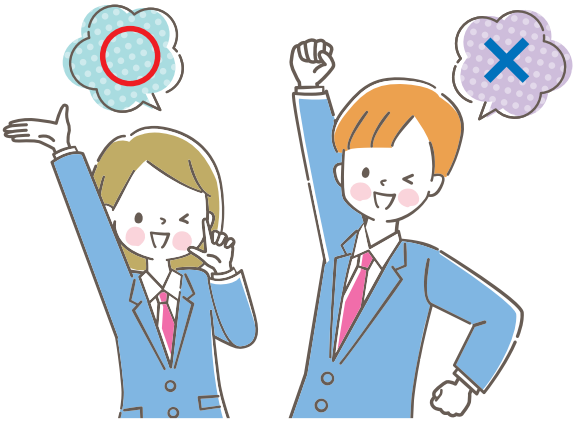
寮祭

10月21日（土）から22日（日）にかけて、寮生会主催で寮祭を行いました。本行事の会場となった第二体育館は10月末より改修工事に入るため、第二体育館での最後の思い出作りにもなりました。寮祭では例年、参加者には富くじが配布され豪華賞品の抽選に参加できます。競技で好成

績を残した寮生には追加で富くじが配られるため寮生たちは意気込んで参加していました。

初日の 10 月 21 日（土）から 22 日（日）午前にかけてバレーボール大会が開催され、17 チームがエントリーし、白熱した戦いを行いました。

また、22 日（日）午後からはミニゲーム大会が行われ、「スリッパ飛ばし」、「じゃんけん大会」、「○×ゲーム」が行われました。



留学生交流会

1 月 13 日（土）に、お正月を留学生に知ってもらう交流イベントを行いました。

イベントには寮生会役員の皆さんがお手伝いに来てくださり、午前中はことわざかるた大会、午後はこま回しやけん玉をおこないました。

けん玉は外国でも親しまれているため、点数を決めて競ってみたところ留学生が上位に名を連ねてくるといった意外な結果となりました。

最後に臼と杵を用いた本格的な餅つきを学寮食堂にて行い、できたてのお餅をきな粉やあんこ、砂糖醤油で頂きました。

令和５年度 進路状況

令和5年度求人状況

令和6年3月15日現在

	卒業予定者	進学者	就職者(A)	公務員	その他	求人状況 求人企業数(計)	求人数(B)	求人倍率(B/A)
知能機械工学科	39	12	26	0	1	1185	633.6	24.4
電気情報工学科	35	13	21	0	1	1248	759.77	36.2
生物応用化学科	37	11	25	0	1	869	420.61	16.8
環境都市工学科	38	18	17	3	0	944	578.57	34.0
メカトロニクス工学専攻	13	2	10	0	1	1075	876.5	87.7
エコシステム工学専攻	15	2	11	1	1	1005	772.5	70.2
計	177	58	110	4	5		4041.55	36.7

令和5年度　卒業予定者 専攻科修了予定者 進路一覧

令和6年3月15日現在
()内は女子数

進路＼学科	知能機械工学科	電気情報工学科	生物応用化学科	環境都市工学科	メカトロニクス工学専攻	エコシステム工学専攻	計
[企業]							
(株)アイ・エス・ビー		1					1
アドバンスドプランニング(株)		1					1
出光興産(株)	1						1
(株)エイト日本技術開発				1			1
エース設計産業(株)	1						1
エスケー化研(株)						1(1)	1
NTTインフラネット(株)				1			1
オークマ(株)	1						1
大阪ガスネットワーク				1	1		2
(株)大林組		1					1
小川香料(株)			1(1)				1
omeroid(株)					1		1
(株)オリエンタルコンサルタンツ				1(1)			1
花王(株)		1	2(1)				3
鹿島建設(株)				2			2
(株)カネカ			1(1)			1(1)	2
関西エアポートテクニカルサービス(株)		1			1(1)		2
(株)クボタ		1			1		2
クラシエ製薬(株)高槻第二工場			2(1)				2
京王建設(株)				1			1
(株)小松製作所大阪工場	1						1
五洋建設(株)				2			2
三機工業(株)				1			1
サントリー(株)			2				2
JFEエンジニアリング(株)				1			1
(株)島精機製作所					1		1
Japan Advanced Semiconduector Manufacturing(株)	1						1
(株)JALエンジニアリング	1						1
新明和工業(株)	1						1
住友精化(株)			1				1
全星薬品工業(株)			1			1(1)	2
ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ(株)	1(1)						1
(株)ソフトサービス	2						2
Daigasガスアンドパワーソリューション(株)			1(1)				1
ダイキン工業(株)	1		1		1		3
大成建設(株)				1		2(1)	3
大日精化工業(株)						1(1)	1
(株)タジマモーターコーポレーション		1					1
(株)タマディック	1						1
チームラボ(株)						1	1
中外製薬工業(株)						1	1
(株)長大						1	1
寺崎電気産業(株)	1						1
(株)デンソー	1						1
東亜石油(株)			1				1
東海旅客鉄道(株)		2(1)					2
東京水道(株)				1			1
小計	14	9	13	13	6	9	64

進路＼学科	知能機械工学科	電気情報工学科	生物応用化学科	環境都市工学科	メカトロニクス工学専攻	エコシステム工学専攻	計
東レ(株)			1(1)				1
中日本高速道路(株)		1					1
西日本高速道路エンジニアリング関西(株)				1			1
西日本高速道路ファシリティーズ(株)		1					1
西日本電信電話(株)				1			1
西日本旅客鉄道(株)	1	1					2
ニチレキ(株)	1						1
(株)日産オートモーティブテクノロジー	1						1
日信電子サービス(株)		1					1
NITTOKU(株)		1					1
パーソナルクロステクノロジー(株)					1		1
パナソニックインダストリー(株)			1				1
阪神高速技術(株)	1			1			2
ファナック(株)	1						1
深江化成(株)			1				1
不二製油(株)	1		2				3
富士通(株)		1					1
フジテック(株)	1						1
富士電機(株)	1						1
ホソカワミクロン(株)						1(1)	1
本州化学工業(株)			2				2
丸善石油化学(株)千葉工場			1(1)				1
マルホ(株)			1				1
三木理研工業(株)						1	1
三井化学(株)大阪工場			1				1
三井住友建設(株)				1			1
三菱重工業(株)					1		1
三菱電機エンジニアリング(株)名古屋事業所	1						1
三菱電機エンジニアリング(株)和歌山事業所	1(1)						1
三菱電機(株)神戸製作所		1					1
三菱電機(株)冷熱システム製作所					1		1
メディカル・エキスパート(株)		1					1
(株)モビテック	1						1
森トラスト・ビルマネジメント(株)		1					1
森永乳業(株)神戸工場	1						1
(株)八雲ソフトウェア		1(1)					1
ユニチカ(株)			1(1)				1
(株)Link-U		1					1
(株)Relic		1					1
和歌山セイカホールディングス(株)			1				1
小計	12	12	12	4	4	2	46

進路＼学科	知能機械工学科	電気情報工学科	生物応用化学科	環境都市工学科	メカトロニクス工学専攻	エコシステム工学専攻	計
[官公庁等]							
御坊市役所				1(1)			1
和歌山県						1	1
国土交通省近畿地方整備局				2(2)			2
[進学]							
室蘭工業大学		1(1)					1
東北大学		1					1
茨城大学	1						1
東京農工大学		1					1
東京工業大学	1						1
長岡技術科学大学			1	4			5
金沢大学				1			1
福井大学	1(1)						1
岐阜大学	1(1)			1(1)			2
豊橋技術科学大学	3	2	2	3			10
和歌山大学				1			1
岡山大学	1(1)			2(1)			3
徳島大学				1(1)			1
愛媛大学			1				1
九州大学	1		1(1)				2
大阪公立大学			1				1
豊田工業大学		1					1
和歌山高専専攻科	3	7(1)	5(4)	5			20
豊橋技術科学大学大学院					1		1
大阪大学大学院					1		1
神戸大学大学院						1	1
九州大学大学院						1	1
小計	12	13	11	18	2	2	58
[その他]							
研究生	1	1					2
海外留学(予定)			1				1
その他					1	1	2
小計	1	1	1	0	1	1	5
合計	39	35	37	38	13	15	177

令和6年度行事計画（4月から9月）

4月 APRIL

7(日)	入学式･入寮式(開寮)
8(月)	始業式･健康診断
26(金)	閉寮
	救急救命講習会
	指導寮生任命式･研修会
	寮生避難訓練

5月 MAY

5(日)	開寮
10(金)～17(金)	授業参観期間(本科)
16(木)	学生総会
18(土)	専攻科推薦入試･専攻科社会人入試
	近畿地区高専体育大会

6月 JUNE

1(土)	専攻科学力入試(午前登校禁止)
11(火)～18(火)	前期中間試験(本科)
	高校総体
	近畿地区高専体育大会

7月 JULY

10(水)	校内体育大会
29(月)～	前期期末試験(本科)
	近畿地区高専体育大会

8月 AUGUST

～1(木)	前期期末試験(本科)
2(金)	本科編入学試験(登校禁止)
5(月)～6(火)	前期期末試験(専攻科)
9(金)	閉寮
10(土)～	本科夏季休業
10(土)	オープンキャンパス
	全国高専体育大会

9月 SEPTEMBER

夏季休業(～9/29(日)まで)

編集：和歌山工業高等専門学校
総合教育科　川﨑有里紗
発行：和歌山工業高等専門学校
和歌山県御坊市名田町野島 77 番地
電話 0738-29-8243、8244（学生課学生係）